

5 種 混 合 予 防 接 種 に つ い て

● 5 種混合ワクチン

①ジフテリア、②百日せき、③破傷風、④ポリオ、⑤インフルエンザ菌 b 型 (ヒブ) の 5 つが混合されているワクチンです。

①ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。感染は主にのどですが、鼻にも感染します。のどなどについて菌が増えて、炎症がおこり、発熱、のどの痛み、犬の吠えるようなせき、嘔吐などの症状が出ます。重症になると、窒息や心筋障害、神経マヒなどを起こすことがあります。

②百日せき

百日せき菌の飛沫感染で起こり、感染力の強いものです。最初は、鼻水や軽いせきが出るなど、普通のかぜのような症状ではじまります。続いてせきがひどくなり、連続的にせき込むようになります。笛を吹くような音が出ます。熱は通常出ません。せきの続く時間が長くなると、呼吸がしづらくなり、乳児では命を落とすこともあります。

③破傷風

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口から体の中に入ることによって感染します。体の中で菌が増えると、顔の筋肉が動かしにくいなどの症状が出ます。徐々に口が開けにくくなり、その後、全身の筋肉が縮んでけいれんを起こしたり、死亡したりすることもあります。

④ポリオ

ポリオウイルスが人の口の中に入って、咽頭や腸の中で増えることで感染します。増殖したウイルスは便中に排出され、再びヒトの口に入り、抵抗力（免疫）を持っていないヒトの腸内で増殖し、ヒトからヒトへ感染します。ポリオウイルスに感染しても、多くの場合、かぜのような症状だけで、病気としての明らかな症状はあらわれません。しかし、一部の人に手や足に麻痺（まひ）があらわれ、その麻痺が一生残ってしまうことがあります。

⑤インフルエンザ菌 b 型 (ヒブ)

乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、原因として最も多く報告されているのが「インフルエンザ菌 b 型」という細菌で、「ヒブ」と呼ばれています。

ヒブは冬に流行するインフルエンザ (流行性感冒) の原因である「インフルエンザウイルス」とは全く別のものです。ヒブによる細菌性髄膜炎 (ヒブ髄膜炎) は、5 歳未満の乳幼児がかかりやすく、生後 4 か月～1 歳までの乳児が過半数を占めています。予防接種の普及により重篤なヒブ感染症が減っています。

● 5 種混合ワクチンの対象年齢・接種回数

・対象年齢は、生後 2 か月～7 歳 6 か月未満

	接種回数	接 種 間 隔 (標準的な接種期間)
初回接種	3 回	★20 日以上の間隔をあけて 3 回接種 (20 日～56 日の間隔をあけて 3 回接種し、生後 2 か月から生後 7 か月の間に接種を開始するのが望ましい。)
追加接種	1 回	初回接種 3 回完了後、6 か月から 18 か月までの間隔をあけて 1 回接種

● 5 種混合ワクチンの副反応

注射部位の反応としては、発赤（赤み）、腫脹（腫れ）、硬結などで、注射部位以外の副反応は、発熱、気分変化、鼻漏、せき、下痢、嘔吐、食欲減退などです。極めてまれですが、重大な副反応としては、ショック・アナフィラキシー様症状（じんましん・呼吸困難など）やけいれんなどがあらわれることがあります。

気になる症状があるときは、医師にご相談ください。

※「予防接種と子どもの健康」より抜粋